

新潟市教育委員会 平成31年1月 定例会会議録

日時	平成31年1月18日(金) 午後2時30分			
場所	白山浦庁舎5号棟3階 教育会議室1			
教育長	前田 秀子			
出席委員 (8名)	佐藤 久栄	出席委員	山倉 茂美	
	沢野 千英子		小野沢 裕子	
	上田 晋三		市嶋 洋介	
	田中 賢一	欠席委員		
	渡邊 節子			
会議出席 教育委員会 事務局職員 (17名)	職・氏名		職・氏名	
	教育次長	高居 和夫	学校支援課長	齋藤 純一
	教育次長	古俣 泰規	生涯学習 センター所長	枝並 素子
	教育総務課長	渡邊 剛	中央公民館長	浅間 直美
	学務課長	高橋 光久	中央図書館長	大井 夫美子
	施設課長	小関 洋	教育総務課 課長補佐	佐藤 夏樹
	保健給食課長	坂井 玲子	教育総務課係長	桑原 勝俊
	地域教育推進 課長	緒方 猛	教育総務課主査	曾我 広人
	学校人事課長	池田 浩		
	教育職員課長	浅間 孝之		
総合教育 センター所長	小川 裕一			
他部署 出席者(0名)				

閉会	時刻	午後2時30分
	宣言者	教育長
付議事件 (0件)	議案番号	件名
報告 (1件)	平成30年度 新潟市生活・学習意識調査結果について	

第1 開会宣言

○教育長

(午後2時30分 開会を宣言)

ただ今より、1月の教育委員会定例会を開催いたします。

本日、報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありますが、非公開とされるものを除き、これを許可することにご異議ありませんでしょうか。よろしければ、許可することで決定します。

では、そのように決定します。

会議録署名委員の指名

○教育長

日程第1 会議録署名委員の指名を行います。新潟市教育委員会会議規則第11条により、会議録署名委員に渡邊委員及び山倉委員を指名します。

第2 報告

○教育長

日程第2報告案件に入ります。

平成30年度 新潟市生活・学習意識調査結果について、総合教育センターから説明をお願いします。

○総合教育センター所長

平成30年度 新潟市生活・学習意識調査の結果がまとまりましたので、報告いたします。

資料をご覧ください。実施時期は、11月15日から11月22日までの間に、調査対象は小学生が3万3,736人、中学生・中等教育学校の前期課程の生徒1万8,344人に対して実施いたしました。小学校の1年生と2年生は、希望する学校に実施いたしました。小学校3年生以上は全数調査のため、すべての児童・生徒を対象にアンケートで実施いたしました。

調査結果については、肯定的回答「1あてはまる」および「2ややあてはまる」の割合が小学校で13項目、中学校で39項目、昨年度より増加しています。

市で特に力を入れている項目の結果の推移については、授業に関する三つの項目である「41ふだんの授業では、学習課題が示されている。」、「42ふだんの授業では、最後に学習内容をふり返る活動(まとめ)を行っている。」、「43ふだんの授業では、友達同士で話し合う活動を行っている。」が、ずっと上昇しているという大変良い傾向になっております。そのほか39、40、44の項目についても、肯定的回答の合計数値が過去5年間の統計を見ても、上昇している傾向があり、これは授業の中で、児童・生徒の話し合いですとか、意見交換などの場を積極的に設けて、小中とも実施していることが、児童・生徒の実感としてとらえられていることの表れだと思います。学校支援課、総合教育センターをはじめ、教育委員会として取組んできた授業改革が着実に浸透してきて、数字として表れたことは評価できると思います。しかし、中学校では、項目39もそうですが、否定的回答がまだ比較的多いという状況もありますので、今後も取組みを一層進めていき、教員研修を通して深めていきたいと思

っております。

「各教科の勉強は好きですか」、「各教科の授業はよく分かりますか」という項目については、その教科が好きという生徒がよく分かったと回答していることは、毎年変わらない状況ですが、徐々に上昇してきている項目も多く、喜んでいるところです。

最後に心配な項目についてです。

「9ふだん、携帯等の通信機器で電話やメールなどを1日にどれくらいしていますか。」について、「していない」、「30分より少ない」と答えた数字が昨年より減っています。

この傾向は過去5年間続いており、これは携帯等の通信機器の所持率が小学生でも確実に上昇してきていることを如実に表していると思います。小学校1年生と2年生に関しては、平成30年度から初めて調査対象に入れたのですが、1年生でも「30分以上1時間より少ない」が2.3%、「1時間以上2時間より少ない」が1パーセント。「2時間以上」は0.7%もいるということで少し驚きの数字ではあります。

また、携帯電話関連の項目9と読書関連の項目10や11について、携帯などの通話時間やメールの時間が多くなれば、本を読む時間が減るかということで、相関関係を調べたのですが、大きな相関関係は見られませんでした。そのため、携帯の使用時間が長い児童は読書の量が少ないとは一概には言えないという分析結果となりました。また、別の見方をすれば、中学生でも携帯等で電話やメールなどの時間が「1時間以上」の生徒が10%台というのは、1時間未満となっている子供がほとんどということでもありますので、コントロールしながら使用しているという見方もできると思っております。携帯電話等の使用については、引き続き調査をしていきたいと思っております。

なお、委員の皆さまもこれを知りたいとか、過去のデータと比較したいなど、より詳細なデータのご要望がありましたら用意いたしますので、総合教育センターまで連絡いただきたいと思います。

以上、報告を終わります。

○教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見等ございましたら挙手をお願いします。

○山倉委員 項目9の携帯電話などの通信機器で通話やメールと書いてありますが、携帯でもゲームができますよね。携帯のゲームは含まれていないのですか。

○総合教育センター所長 ゲームは項目8の「ふだん、電子ゲーム(インターネットゲームをふくむ)を1日にどれくらいしていますか」で調査しております。

○山倉委員 1年生でこんな多い数字が、メールや電話で1時間も使っているのかなど。ゲームと間違えているのかなどという考えが頭をよぎったので、質問しました。

○総合教育センター 間違えて回答している子供もいるかもしれません。

ター所長

○渡邊委員

関連してなのですが、今、子供たちはスマホでユーチューブなどの動画を見るなど、そういった使用が多くなっていると思うのですが、それはどの項目に当てはまるのでしょうか。

○総合教育センター所長

項目9のメールなどに含めて回答してもらいたいのですが、例えば、SNSの利用や動画視聴など、より具体的で子供たちにわかりやすい表現の言葉なども入れてあげるのが適切だと思いますので、来年度からは具体的なものについては入れたいと思います。

○小野沢委員

項目6の「すいみん時間はだいたいどれくらいですか。(学校へ行く日)」について、これはどのように確認したら良いのでしょうか。

○総合教育センター所長

次のページに調査用紙があり、項目6の睡眠時間は大体どれくらいですかということで、回答1が9時間以上、回答2が8時間以上9時間未満、回答3が7時間以上8時間未満、回答4が6時間以上7時間未満、回答5が6時間未満と、時間を1時間ごとに区切り調査しました。このように調査項目には、すべてあてはまる、ややあてはまるというような選択肢だけではなく、具体的に時間を聞くなどしている調査も含まれています。

○小野沢委員

わかりました。ありがとうございます。

○上田委員

実際に生徒にアンケートを書いてもらうのは、授業中に時間を割いて書いているのですか。それともこのアンケート用紙を持って帰って、後日提出されたものをまとめるということですか。

○総合教育センター所長

学校で一斉調査という形で、学活などの時間を利用して書いてもらっています。

調査用紙の項目46以降には、各学校で自由に質問を設定できる欄も用意しており、例えば各学校で、自分の学校のことやさまざまなことについて、子供たちの評価やアンケートを取ることができるようになっているため、各学校の学校評価の中にも大いに活かしてもらっているところ です。

○佐藤委員

これは新潟市独自の調査ですよね。

○総合教育センター所長

独自の調査です。

○佐藤委員

児童生徒の生活・学習の実態を毎年、調べられていますが、調査結果を基に何か普段の学校現場であるとか、教育行政に反映させるなど、具体的なことが過去にあったのか。また、これからこのようにしていきたいとか、今後の動きがありましたら教えてください。

○総合教育センター所長

この調査は平成17年から始めた調査であり、長く続けております。調査結果は、いわゆる生データ、各区の分布や各学校の個別データがありますが、これらもすべて事務局各課に提供しているところです。

各課においては、調査結果を基に各施策の立案等に役立てている例もあります。

○佐藤委員

このたびの、また、これまでの調査結果も各課で有効活用し、本市の

教育行政に役立っているということですね。分かりました。

○総合教育センター所長

長年、継続して調査しているので、さきほどお話にあった動画の視聴の件ですとか、質問内容が現状に少し合わなくなっている面もあります。また、教育委員会の各課別で調査を行うと、学校や児童生徒の負担になりますので、各課からの要望を受けて質問内容の修正や、さまざまな現状調査について、当該調査などを通じてまとめて調査していきたいと思います。

文科省は4月に全国学力学習意識調査を実施していますが、本市の調査は11月後半に実施しており、春からの学校生活を経たうえでの成果はどうなっているかということ、これをすべての学校から得ることができるというのがメリットです。

○佐藤委員

よく分かりました。ありがとうございます。

○田中委員

今のお話に関連して、行政の立場では今、所長がお話しされたようなことを行っていますが、各学校にも調査結果が渡されて、自校のデータと市全体のデータとの整合を取りながら、この点では、うちの学校の子供たちは、市全体の中ではとても良い数字だと。あるいは、このところをもう少し頑張らしようという形で各学校は自校の特色をつかみ、活用しています。

○教育長

ほかにいかがでしょうか。

○山倉委員

項目28の「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります」では、中学生で数字が上がっているのですが、それは全校で配置されている地域教育コーディネーターや学習支援ボランティアなどが学校で活動することによって、その成果が数字になって、このたびの調査結果に表れているのではないかと思います。

項目39の「授業で、自分の考えを進んで発表しています」や、44の「自分の考えを発表する機会があります」とありますが、私は中学校1年生の農業体験を受け入れたときに発表会があって中学校に行ったのですが、1年生なのに非常に皆さん上手に発表されていて、やはりこういう取組みの成果が少しずつ出てきているのが、あのようなすばらしい発表に繋がっているのだなということをとっても感じました。

○田中委員

細かくよくデータを分析していただいたと思います。私は平成29年度の1+2の数値と平成30年度の1+2の数値を全部比較して、矢印の赤と青というように全部入れたのです。それを見ると圧倒的に中学校がほとんどすべての項目で上がっているのです。これはすごいと思いました。もちろん小学校も高い数値を維持しているのが多いです。しかし、中学校はほとんど9割方数値が上がっているのです。これは、中学校の先生方が本気を出して取組んできた成果だと思うし、また別な見方をすれば、小学校のときに指導を受けた子供たちが中学校に上がり、だんだんそれがまた伸びてきている。このように受け止められると感じました。

それから、例えば項目21「自分にはよいところがあります。」、項目23「やっていることを先生や友達に認められて、うれしいと感じることがよくあります。」いわゆる自己肯定感の部分ですが、この数値、小学校も中学校も平成29年から平成30年と以前と比べ大幅に上がっています。

先ほど平成17年度からこの調査が始まったとありましたが、ホームページで確認しますと平成17年度の調査結果と平成22年度の調査結果の比較というのがあります。それを見ますと、例えば、項目21は平成22年度小学校では73.1%だったのが、81.5%(H27)、84.7%(H29)、85.2%(H30)と確実に上がっている。平成22年度と比べると平成30年度は12.1ポイントの上昇です。同様に中学校は8.5ポイントの上昇です。

ほかにも、先ほど山倉委員が指摘された、項目39を比べますと、小学校は平成22年度に比べて22.2ポイントも上がっているのです。平成22年度に48.3%だったものが平成30年度で70.5%。ものすごい飛躍です。さらに中学校の項目43「ふだんの授業では、友達同士で話し合う活動を行っている」を見ますと66.5%から90.9%と24.4ポイントも上昇しており、これだけ大きく上がってきているというのは、やはり各学校の先生方一人ひとりの取組みがここに反映されているなど、実感しました。

○教育長

ほかにかがでしょうか。

○沢野委員

感想になりますが、項目39、40、44は、グループで話し合う活動や自分の考えを発表するとあります。以前訪れた、小学2年生の授業だったと思いますが、2年生なのだけれども、ちゃんとグループで話し合っている。自分の意見を堂々と言えている姿を見たときに、小学2年生はこんなにしっかりしていたかなと思った覚えがありますが、この調査結果のように学校で力を入れて取り組んでいることが表れているのかなと感じました。

○渡邊委員

感想になりますが、今ご指摘があった、グループでの話し合いや自分で話をするということが、今はどんどん活発にできるようになっていることが、調査結果からも分かりました。

一方で個別に子供の話を聞いていると、そういったことがすごく苦手で、ただ聞くだけの授業だと出られるのだけれども、グループ活動が苦手で、どうしてもそこには参加できないという子供たちがいるのです。もちろん先生方のご存じと思いますが、全体的な積極性や協調性が増すことで、馴染めない子供との差がどんどん開いていくこともあるのだらうなということを感じました。

そういったことが苦手な子供への声かけだったり、その段階から少し次に成長できるための方策だったりということも、個別に先生方からご指導いただくと、そういった子供たちがとても助かると思いました。カウンセラーの立場でいると、そういった声がとてもよく聞こえます。

○教育長

ほかにはいかがでしょうか。ございませんでしょうか。
それでは、報告案件については以上となります。

第3 次回日程

○教育長

続きまして、次回の日程について、教育総務課からお願いします。

○教育総務課長

次回の日程です。2月につきましては、2月8日(金)午後3時30分から、3月につきましては、3月14日(木)午後3時30分から定例会を予定しています。なお、3月は定例会の前に、社会教育委員との懇談会の開催を予定しておりますので、よろしくお願いたします。

第4 定例会閉会

○教育長

以上で定例会を閉会します。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

渡邊 節子

署名委員

山倉 茂美